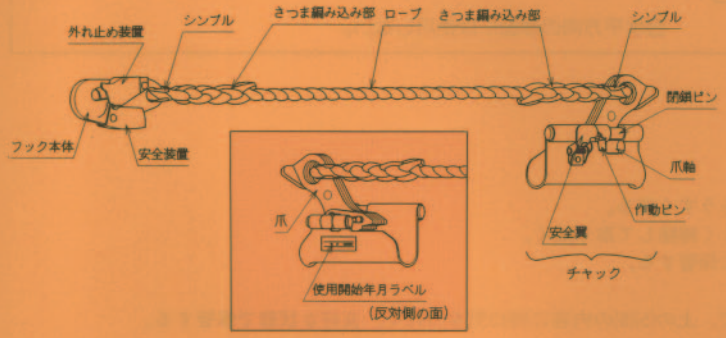
3-1 **要保存** 必ずお読みください。

タイタン ロープチャック
取 扱 説 明 書

サンコー株式会社

この度は、タイタンロープチャックをお買い上げいただきましてありがとうございます。
この製品は、建設現場・工場等の高所作業で、垂直親綱と併用することにより作業者の墜落を防止するために使用していただく製品です。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書（表・裏両面）をよくお読みいただき、内容をご理解ください。特に ⚠危険・ ⚠警告・ ⚠注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。合わせてこの取扱説明書は大切に保管していただき、紛失した場合には当社にご請求ください。
＊併用される安全帯に添付されている取扱説明書も、合わせてお読みください。

1. 各部の名称



2. 使用条件

⚠警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

(1)作業者の墜落防止以外の目的で使用しない。
(2)ロープチャックのフックは必ず、安全帯のD環に直接掛けて使用する。使用する安全帯は同一メーカー（当社製品）に限定する。
(3)チャックは適切な垂直親綱に取り付けて使用する。
(4)垂直親綱はφ16mm～20mmで引張強さが22.9kN（2340kgf）以上の合成繊維ロープを使用する。
(5)使用者の体重は100kgを上限とする。

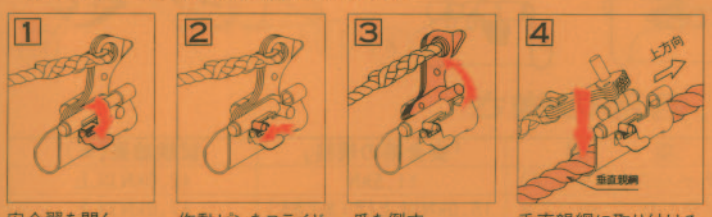
＊垂直親綱にはタイタンφ16mmシグナルロープの使用をおすすめします。
＊体重100kgを超える方が使用される場合は、製造元まで別途ご相談ください。

3. 使用前点検

①装着前にこの取扱説明書をよく読み、正しい使用方法を確認する。
②装着前に必ず、この取扱説明書の［7. 点検・廃棄］の内容に従って各部に異常がないか点検する。
③新しい製品を使用する前に、使用開始年月ラベル（［8. 交換の目安］参照）に必ず記入する。
④垂直親綱も②と同様に、使用前に点検する。

4. 装着方法

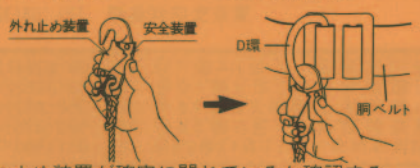
①取付上下方向（製品に⇧upで表示）を間違えないようにして、下図の1～7の順序でチャックを垂直親綱に取り付ける。



安全翼を開く　作動ピンをスライドさせる　爪を倒す　垂直親綱に取り付ける

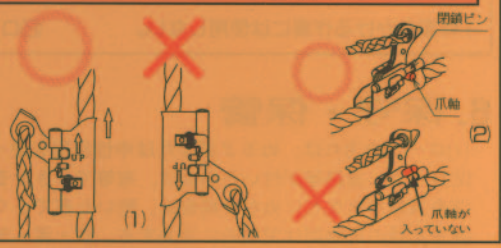
爪をもどす　作動ピンをもどす　安全翼を閉じる

②安全帯の胴ベルトを装着する。
③胴ベルトのD環にロープチャックのフックを掛ける。フックは、安全装置と外れ止め装置を同時に押さえて開き、D環に掛けた後、外れ止め装置が確実に閉じているか確認する。



⚠危険 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、絶対にやめてください

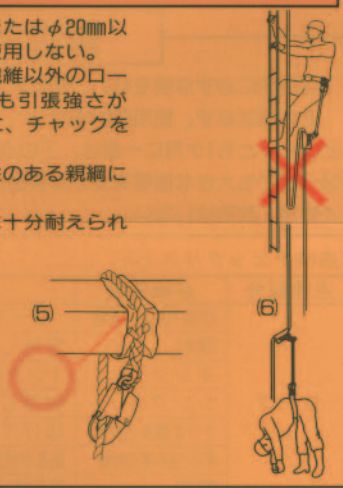
(1)チャックの取付上下方向を間違えないようにする。
(2)チャックを親綱に取り付けた時に、爪軸が閉鎖ピンの内側に入り確実に閉じられていることを確認する。



［併用する垂直親綱に関する注意］

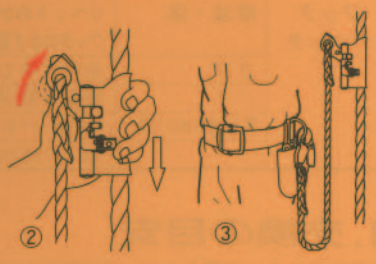
⚠警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

(1)使用時点での実測値がφ16mm未満またはφ20mm以上の親綱にチャックを取り付けて使用しない。
(2)ワイヤーロープ・麻ロープ等合成繊維以外のロープ、及び合成繊維ロープであっても引張強さが22.9kN（2340kgf）に満たないものに、チャックを取り付けて使用しない。
(3)墜落阻止時の衝撃で破断する可能性のある親綱にチャックを取り付けて使用しない。
(4)親綱の上端は、墜落阻止時の衝撃に十分耐えられる堅固な固定物に確実な方法で取り付ける。
(5)親綱を鋭い角のある構造物に取り付ける場合は、布等を当てて直接触れないようにする。
(6)親綱の下端も適切なものに固定する。固定されていないと、上に昇る時に親綱がいっしょに引き上げられ、落下距離が大きくなることがある。



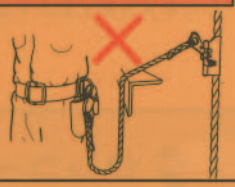
5. 使用方法

①上に昇る際は、チャックは体の動きにしたがって親綱上を引き上げられる。
②下に降りる際は、下方向に対して常にロックされているので、片手でチャックを握り、爪を解放状態にして下にスライドさせながら降りる。
③定位置で作業する際は、垂直親綱上のチャックの高さを腰より高いところに固定する。



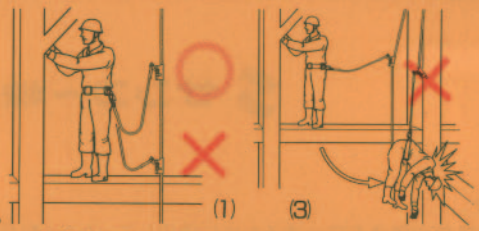
⚠危険 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、絶体にやめてください

(1)墜落阻止時に鋼材等の鋭い角にロープが当たらないようにし、やむをえない場合は布等を当てて直接触れないようにする。

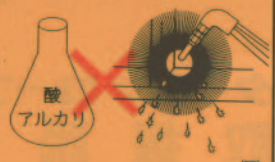


⚠ 警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください。

⑴定位置で作業する際には、チャックの固定位置は腰より低くしない。
⑵ロープの長さが標準品(70cm)より長いものを使用する場合は、昇降時に常にチャックの位置が腰より高くなるようにする。チャックを単品として購入し、安全帯のフックを接続して使用する場合もこれに該当するので注意する。
⑶墜落阻止時に振子状態になって物体に激突しないように使用する。



⑷1本の親綱は原則として1人で使用する。
⑸溶接の火花・強い酸やアルカリ・油・その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品にかかったり触れたりしないようにする。
⑹ロープは水分を含むと電気をよく通すので、特に雨の日などは感電に注意する。
⑺墜落阻止時に下方の物体に接触しないようにする。長い親綱の下方で使用する場合は、墜落阻止時の親綱の伸びを考慮して特に注意する。
⑻金具の衝突や静電気による火花で爆発・引火することがあるので、ガスや粉塵の濃度の高い場所では使用しない。



⚠ 注意 安全にお使いいただくためにお守りください

⑴体重をかける作業には使用しない。　⑵ロープをねじって使用しない。　⑶水平方向の移動には使用しない。

6. 保守・保管

⑴ロープの汚れは、ぬるま湯または中性洗剤を使って洗い、陰干しする。
⑵ロープに塗料等が付いた場合は、布等でふきとる。溶剤を使ってはならない。
⑶金具類が水などにぬれた場合は、乾いた布でよくふきとった後、さび止めの油をうすく塗る。
⑷金具類の可動部は定期的に注油する。砂・泥・モルタル等が付いている場合はよく掃除して取り除く。
⑸直射日光や火気・放熱体・腐食性物質を避け、屋内の風通しがよく清潔な場所に保管する。
⑹子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないよう注意する。
⑺新品のままでも、使用せずに長期間保存する場合は、必ず内装箱に入れた状態で、上の⑸⑹の内容に特に気をつけて、良好な状態で保管する。

7. 点検・廃棄

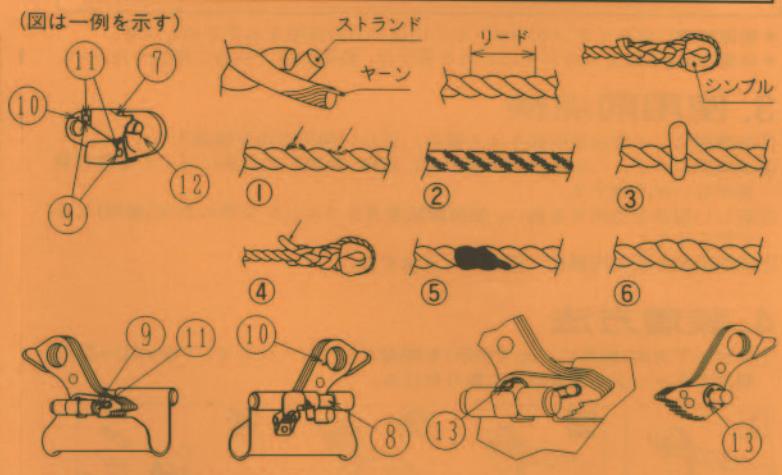
⚠ 警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

⑴使用前に必ず点検を行い、廃棄基準に該当する箇所があれば、その製品を廃棄して新しいものと取り替える。
その際は必ず、使用開始年月ラベル([8.交換の目安] 参照)に使用開始年月を記入する。
⑵少なくとも1ケ月に一度は、下の点検チェックリストに従ってより詳細に点検を行う。
⑶一度でも大きな衝撃を受けた製品は、外観に変化がなくても廃棄する。
⑷修理・改造はしない。

〈点検チェックリスト〉

点検部分	点検項目	廃棄基準	
ロープ	切傷・焼傷・溶融	1リード内に7ヤーン以上あるもの	①
	摩耗	摩耗して棒状になっているもの	②
	キンク	キンクした(よじれてコブ状になった)もの	③
	シンブル	脱落しているもの	
	さつま編み込み部	抜けているもの/ゆるんでいるもの	④
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着し変色したもの/塗料が付着し硬化したもの	⑤
	変形	形崩れしているもの/著しく縮んでいるもの	⑥
金具類 フック チャック	変形	変形が目視でわかるもの	
		フックの外れ止め装置の開閉作動の悪いもの	⑦
		チャックの閉鎖ピンの開閉作動の悪いもの	⑧
		リベットのカシメ部にガタ・変形のあるもの	⑨
	摩滅・傷	深さ1mm以上の傷・き裂があるもの	⑩
		リベットのかしめ部が1/2以上摩滅しているもの	⑪
		フックのかぎ部の内側に少しでも傷のあるもの	⑫
	さび	全体にさびが発生しているもの	
	バネ	折損・脱落しているもの/動きの悪いもの	
	薬品・塗料等の付着	可動部・バネ等に塗料等が付着し、ふき取れないもの	
		チャックのつめばね取付ネジ及びつめ取付止め輪が外れているもの	⑬

(図は一例を示す)



8. 交換の目安

①使い方によって異なるが、使用開始より2年をめどに新しい製品と交換する。
②[7.点検・廃棄] の内容に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで新品と取り替える。
③チャックに貼り付けられたラベル(右図)に使用を開始した年月を必ず記入する。

必ずご記入ください。
年　月　使用開始
取扱説明書を必ずお読みください

9. 各部の強さ

項目		「安全帯の規格」	試験結果(※)
チャック(グリップ)		11.5kN	12.0kN以上
ヤラードン	ロープ	15.0kN以上(アイ加工含む)	17.0kN以上
	フック	11.5kN	17.0kN以上
衝撃吸収性及び滑り		衝撃値 8.0kN以下 滑り 30mm以下 (85kg落下体使用)	衝撃値 7.0kN以下 滑り 30mm以下

(※)試験結果は当社の16mmビニロンロープを使用した場合。
試験値は新品時の強さで、使用による摩耗、紫外線暴露などにより経年劣化します。

10. お客様相談窓口

製品の使用方法等に関してご不明の点がありましたら、お買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。

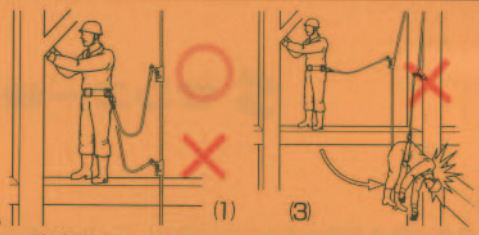
サンコー株式会社　本社営業部　TEL:06(6394)3541(代) FAX:06(6395)0041
東京支店営業部　TEL:03(3352)5404(代) FAX:03(3350)5320

サンコー株式会社
本社　〒532-0033 大阪市淀川区新高1丁目14番7号　TEL:06(6394)3541(代) FAX:06(6395)0041
東京支店　〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目8番18号　TEL:03(3352)5404(代) FAX:03(3350)5320
名古屋営業所　〒456-0056 名古屋市熱田区三番町22番15号　TEL:052(653)5770　FAX:052(653)5810
九州営業所　〒814-0164 福岡市早良区賀茂4丁目6番28号　TEL:092(873)0392　FAX:092(873)0948
北海道出張所　〒004-0001 札幌市厚別区厚別東一条5丁目12番23号　TEL:011(898)4530　FAX:011(898)4530

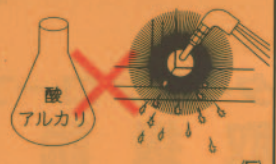
05.08-10,000SW

⚠ 警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください。

⑴定位置で作業する際には、チャックの固定位置は腰より低くしない。
⑵ロープの長さが標準品(70cm)より長いものを使用する場合は、昇降時に常にチャックの位置が腰より高くなるようにする。チャックを単品として購入し、安全帯のフックを接続して使用する場合もこれに該当するので注意する。
⑶墜落阻止時に振子状態になって物体に激突しないように使用する。



⑷1本の親綱は原則として1人で使用する。
⑸溶接の火花・強い酸やアルカリ・油・その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品にかかったり触れたりしないようにする。
⑹ロープは水分を含むと電気をよく通すので、特に雨の日などは感電に注意する。
⑺墜落阻止時に下方の物体に接触しないようにする。長い親綱の下方で使用する場合は、墜落阻止時の親綱の伸びを考慮して特に注意する。
⑻金具の衝突や静電気による火花で爆発・引火することがあるので、ガスや粉塵の濃度の高い場所では使用しない。



⚠ 注意 安全にお使いいただくためにお守りください

⑴体重をかける作業には使用しない。　⑵ロープをねじって使用しない。　⑶水平方向の移動には使用しない。

6. 保守・保管

⑴ロープの汚れは、ぬるま湯または中性洗剤を使って洗い、陰干しする。
⑵ロープに塗料等が付いた場合は、布等でふきとる。溶剤を使ってはならない。
⑶金具類が水などにぬれた場合は、乾いた布でよくふきとった後、さび止めの油をうすく塗る。
⑷金具類の可動部は定期的に注油する。砂・泥・モルタル等が付いている場合はよく掃除して取り除く。
⑸直射日光や火気・放熱体・腐食性物質を避け、屋内の風通しがよく清潔な場所に保管する。
⑹子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないよう注意する。
⑺新品のままでも、使用せずに長期間保存する場合は、必ず内装箱に入れた状態で、上の⑸⑹の内容に特に気をつけて、良好な状態で保管する。

7. 点検・廃棄

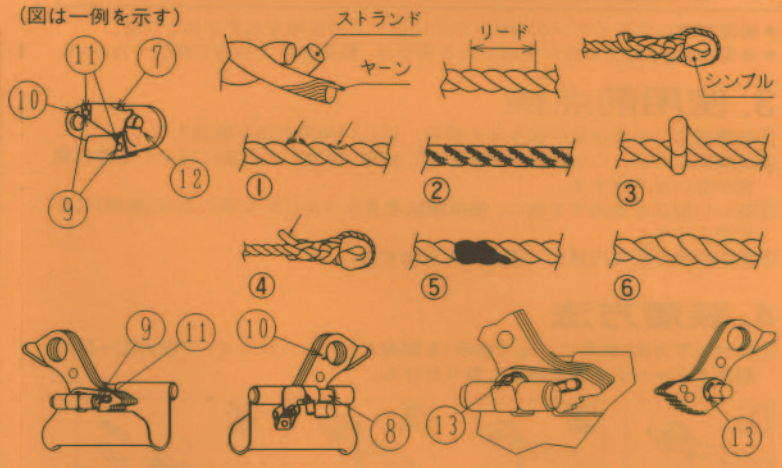
⚠ 警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

⑴使用前に必ず点検を行い、廃棄基準に該当する箇所があれば、その製品を廃棄して新しいものと取り替える。
その際は必ず、使用開始年月ラベル([8.交換の目安]参照)に使用開始年月を記入する。
⑵少なくとも1ケ月に一度は、下の点検チェックリストに従ってより詳細に点検を行う。
⑶一度でも大きな衝撃を受けた製品は、外観に変化がなくても廃棄する。
⑷修理・改造はしない。

〈点検チェックリスト〉

点検部分	点検項目	廃棄基準
ロープ	切傷・焼傷・溶融	1リード内に7ヤーン以上あるもの ①
	摩耗	摩耗して棒状になっているもの ②
	キンク	キンクした(よじれてコブ状になった)もの ③
	シンブル	脱落しているもの
	さつま編み込み部	抜けているもの/ゆるんでいるもの ④
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着し変色したもの/塗料が付着し硬化したもの ⑤
	変形	形崩れしているもの/著しく縮んでいるもの ⑥
金具類 フック チャック	変形	変形が目視でわかるもの フックの外れ止め装置の開閉作動の悪いもの ⑦ チャックの閉鎖ピンの開閉作動の悪いもの ⑧ リベットのカシメ部にガタ・変形のあるもの ⑨
	摩滅・傷	深さ1mm以上の傷・き裂があるもの ⑩ リベットのかしめ部が1/2以上摩滅しているもの ⑪ フックのかぎ部の内側に少しでも傷のあるもの ⑫
	さび	全体にさびが発生しているもの
	バネ	折損・脱落しているもの/動きの悪いもの
	薬品・塗料等の付着	可動部・バネ等に塗料等が付着し、ふき取れないもの
		チャックのつめばね取付ネジ及びつめ取付止め輪が外れているもの ⑬

(図は一例を示す)



8. 交換の目安

①使い方によって異なるが、使用開始より2年をめどに新しい製品と交換する。
②[7.点検・廃棄]の内容に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで新品と取り替える。
③チャックに貼り付けられたラベル(右図)に使用を開始した年月を必ず記入する。

必ずご記入ください。
年　月　使用開始
取扱説明書を必ずお読みください

9. 各部の強さ

項目		「安全帯の規格」	試験結果(※)
チャック(グリップ)		11.5kN	12.0kN以上
ヤラードン	ロープ	15.0kN以上(アイ加工含む)	17.0kN以上
	フック	11.5kN	17.0kN以上
衝撃吸収性及び滑り		衝撃値 8.0kN以下 滑り 30mm以下 (85kg落下体使用)	衝撃値 7.0kN以下 滑り 30mm以下

(※)試験結果は当社の16mmビニロンロープを使用した場合。
試験値は新品時の強さで、使用による摩耗、紫外線暴露などにより経年劣化します。

10. お客様相談窓口

製品の使用方法等に関してご不明の点がありましたら、お買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。

サンコー株式会社　本社営業部　TEL:06(6394)3541㈹ FAX:06(6395)0041
東京支店営業部　TEL:03(3352)5404㈹ FAX:03(3350)5320

サンコー株式会社
本社　〒532-0033 大阪市淀川区新高1丁目14番7号　TEL:06(6394)3541㈹ FAX:06(6395)0041
東京支店　〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目8番18号　TEL:03(3352)5404㈹ FAX:03(3350)5320
名古屋営業所　〒456-0056 名古屋市熱田区三番町22番15号　TEL:052(653)5770　FAX:052(653)5810
九州営業所　〒814-0164 福岡市早良区賀茂4丁目6番28号　TEL:092(873)0392　FAX:092(873)0948
北海道出張所　〒004-0001 札幌市厚別区厚別東一条5丁目12番23号　TEL:011(898)4530　FAX:011(898)4530

05.08-10,000SW